

[沖縄通信]

6月19日：第4回ツールド宮古島

宮古島といえばトライアスロンが有名で今年で20回近く開催されている。自転車のロードレースはまだまだ日が浅く今年で4回目。「ツールド沖縄」50kmレースには過去2回連続で出場しているが、ツールド宮古島は今年が初参加である。レースは100kmと100mileがあり、100kmにエントリーした。

練習で100kmは走っているが、練習の時は休み休みなので続けて走るのは初体験である。はたしてどうなることや！？



民宿「ういづ」前にて～出発前

空手道の大会でもそうであるが、やはり始まる前は緊張する。スタートしてどうなるか、全く未知なので完走できるかどうか不安である。

スタートは7時に 100mile が、100km は7時 10分である。制限時間は 11 時までで、あとは打ち切られる。今回の参加者は 100km が 370 名、100mile が 160 名である。朝が早いといってもじりじりと気温は上がってきて、待っているだけでも汗が垂れてくる。



レース参加前～まだ余裕がみられます！！

7時10分ついにスタートとなった。最初の7kmは先導車がいって一定のスピードで走り、それ以上には上げないようセーブしている。狭い道を走るので前後左右と接触をしないようにしないと危ない。

過去2回のレース経験からスタート時には前にいた方がいいということが分かってきたので、なるべ前方に並んだ。

先導車がいなくなってからが勝負である。ただしこの歳になると、50kmと違って最初からとばすとあとが続かない。とって集団から離れるとどんどんおいていかれてしまう。そこが難しいところだ。



完走後～疲れきった顔

50kmを過ぎたあたりから気力が衰えてきた。サドルにあたっているお尻と局部がずれて痛い。50km1時間半だったので、あと半分だと同じく1時間半だが、だんだんとペースが落ちてくる。あと40km、30km、20kmとそれだけ为目标に走る。前日に自転車を組み立てた後に走った見覚えのある地点に来た。あと4km。何とか時間内に完走できそう！

最後の坂でダッシュ！3時間43分、何とか完走できた。370人中194位。完走率67%であった。ウレシイ！！

来年は160kmに挑戦かな??



午後3時より「完走&表彰パーティー」

宿に帰りすぐに自転車をたたみシャワーを浴び、参加した同僚と早速ビールで乾杯！何と美味しかったことか！！これのために過酷な中を走ってきたのだなと、痛感した。

3時から「完走&表彰パーティ」。皆頑張ったんだなと改めて感じた。



パーティー終了後は、今年の1年生で宮古島出身の学生からお勧めの居酒屋を聞いていたので、そこに向かった。2軒飲み歩き、9時頃帰ってきたら、民宿の庭が騒がしい。除いてみると民宿オーナーと宿泊客らが宴会をしていた。早速仲間に入れてもらう。途中から宮古島名物「オトーリ」が始まった。

「オトーリ」とは、泡盛をグラスで一気飲みして杯をまわす回し飲みの作法。古くから宮古地方に伝わるお酒の飲み方で、むかしは貴重品だったお酒を、平等に分け合つて飲むために始まったと言われる。今では、「オトーリ」用に水割りにされた泡盛も売られているほどで、いつでもどこでも「オトーリ始めるさあ」の一言で「オトーリ」の宴は開催される。

「オトーリ」を始めるには、まず、親になつた人がお酒を入れたグラスを持つて「口上」と呼ばれる挨拶をする。「今日は、この仲間と飲めることが-」と、集まつた人へ気持ちを伝えてもいいし、島の人たちは「免許が取れました」、「彼女と仲直りできました」などと報告をする場合もある。そして親は「ありがとうございました」とグラスのお酒を飲み、そして隣の人にグラスを回し、メンバーは順番に親から注がれた酒を飲みまわしていく。お酒の弱い人はあらかじめ「自分はお酒が弱い」と申告しておくといいたろう。右回りが「豊作回り」で、左回りが「大漁回り」。どちらに回しても縁起がいい。全員が飲み終わると、親はもう一度グラスを空け、次の親を隣の人に譲る。そうやつて全員が親を務め終わると、「ではもう一周」と、グラスは止まることなく回されてゆく。

以上が「オトーリ」の概要であるが、我々は昼過ぎから飲んでいる。ちょっとそろそろきているかなというところであるし、庭にいた面々も一回目のオトーリは済ませているとのことなので、軽いオトーリをして長かった1日が終わった。

20日(月)は代休をとってあるので、島内観光をした。民宿のオーナーに車を借り、まずは昨日のレースの道順で走った。よくまあ、こんな道を走ったもんだ、としきりに感心する。沖縄はアップダウンが非常にきつい。それでも本島に比べれば宮古島は楽な方かな？

車は楽でいい。アクセルを踏めば走るし、エアコンも効いている。昨日走っている時に常感じていたのだけど、何で好き好んでつらい思いをしないといけないのだろうかね！！？？永遠に答えは出ないのかもしれない。

昼食をとり、鍾乳洞へ向かう。ここの鍾乳洞は海からしか入れない。それも満潮の時には入り口がふさがれてしまうので、干潮を見計らって入ることになる。本日の干潮は16時40分。14時頃から入り口が見えてくるので、入れるようになる。去年一人で来た時にはガイドを頼んだが、頼まなくても行けるので今回はレース参加の同僚と一緒にいった。ただ失敗したのは、懐中電灯を持って行かなかつたこと。前にツアーの人たちがいたので何とか見えたが、少し離れてしまうと真っ暗闇で見えなくなる。皆には悪かつたが危ないので、早々に引き上げた。今度は懐中電灯を忘れないようにしよう！



鍾乳洞から帰ってきて荷物を整理した後、帰りの飛行機の時間までまだ間があるのでまたまた乾杯！よく走り、よく飲んだ3日間であった。

宿泊した民宿は下地公園近くの民宿「ういづ」。オーナーのママさんは3年前に民宿を始めるまでは、10年以上宮古島のトライアスロンに出場していたという強者である。民宿を始めてからは忙しくて出れなくなり、そのせいで20kgは太ったということである。

生ビールは最初の1杯はサービスだといっていたが、そのうち訳が分からず飲み放題。泡盛はビンで置いてあるので、勝手に飲み放題。つまみがなくなると、そっと持ってきてくれる。至れりつくせりの宿である。1泊2食付で4500円。ママチャリ、原付は無料貸し出し。車も空いていたら貸してくれる。

「ういづ」最高です！！宮古島に行く時には是非泊まってくださいね。

お世話になりました。ありがとうございました。



宮古島最後の乾杯！！